

平成20年度

学力定着度調査

品川区立浅間台小学校
校長 豊島 呈次

平成21年2月23日（月）に実施した4年生（現在5年生）の国語及び算数の学力定着度調査の結果は次の通りです。

問題数は、国語科41問、算数科43問です。小学校4年生までに学習する国語及び算数に関する内容で、特に、「読み」「書き」「計算」といった「知識や理解」「技能や表現」という観点から問題が作成され、品川区小中一貫教育要領の内容に沿った「基礎・基本の問題」で構成されています。

「習熟基準」と「正答率」を百分率（%）で示しています。

「習熟基準」とは、問題ごとに全体の中でどのくらいの子どもたちに正答してもらいたいかという人数の割合を示したもので、品川区小中一貫教育要領をもとに教育委員会が設定したものです。この「習熟基準」は問題の難易度によって異なります。

「正答率」とは、問題ごとに、それぞれの学校において実際に正答した子どもたちの数の割合を示したものです。

本校の「正答率」を「習熟基準」に照らして、学力の定着状況を判断していきます。「習熟基準」よりも「正答率」が上回っていれば、この問題に対する定着状況はおおむね良好であると言えます。

本校の「正答率」を「習熟基準」を基にして分析し、学力定着の状況をつかみます。そこから指導改善の具体的な対応策を考えていきます。

結果の概要

- 評価 ◎：十分満足な状況（正答率の平均が習熟基準の平均を10ポイント以上超えている）
○：ほぼ満足な状況（正答率の平均が習熟基準の平均を超えている）
△：努力を要する（正率の平均が習熟基準の平均まで届いていない）

【国語】本校の「正答率」

領域	正答率の平均	習熟基準の平均	評価
漢字	67.9%	77.5%	△
言語事項	77.7%	63.1%	◎

文学的文章	89.3%	76.3%	◎
説明的文章	75.7%	74.0%	○
作文	98.2%	63.8%	◎

各項目の正答率の平均を見ると、正答率が習熟基準を超えたのは「言語事項」「文学的文章」「説明的文章」「作文」の4つの領域でした。なかでも「言語事項」「文学的文章」「作文」については、習熟基準を大幅に上回る結果となりました。しかし、「漢字」については、正答率の平均が習熟基準の平均より大幅に下回り、努力を要する結果となりました。漢字に慣れ親しむ機会を増やしたり、具体的な練習の方法を計画的に実施したりするなど、さらに重点を置いて指導していきます。

【算数】本校の「正答率」

内 容	正答率の平均	習熟基準の平均	評 価
計算	97.2%	79.5%	◎
数の式の意味と 計算 (計算以外)	91.1%	77.5%	◎
量と測定	80.0%	76.0%	○
図形と計量	89.8%	72.9%	◎
資料の分析	78.6%	76.7%	○

各項目の正答率の平均を見るとすべての内容において、習熟基準の平均を超えています。特に、「数の式の意味と計算」では10ポイント以上、「計算」と「図形と計量」では、15ポイント以上、正答率の平均が習熟基準の平均を超えていて、十分満足な状況です。習熟度別学習やホップステップタイム（個別習熟度別学習）、朝の帯時間での基礎学習の成果といえます。

結果の分析と解説

〔国語科〕

(1) 漢字

<結果>

①読み 本校平均正答率：92.9% 習熟基準：83.0%

「漢字の読み」については、「漢字ステージ100」3・4年生までの配当漢字の中から10問出題されています。その結果、正答した割合が習熟基準を上回った問題が9問で、下回った問題が1問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を9.9ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
①	3・4年	95%	100.0%
②		90%	100.0%
③		85%	92.9%
④		75%	85.7%
⑤		80%	71.4%
⑥		70%	100.0%
⑦		95%	100.0%
⑧		90%	100.0%
⑨		85%	100.0%
⑩		65%	78.6%

②書き 本校平均正答率：42.9% 習熟基準：72.0%

「漢字の書き」については、「漢字ステージ100」3・4年生までの配当漢字の中から10問出題されています。結果は、習熟基準を上回った問題が1問、習熟基準を下回った問題が9問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を29.1ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
①	1・2年	70%	35.7%
②	3・4年	80%	71.4%
③		80%	64.3%
④		75%	42.9%
⑤		80%	21.4%
⑥		50%	7.1%
⑦		80%	21.4%
⑧		80%	57.1%
⑨		65%	42.9%
⑩		60%	64.3%

<分析と解説>

「漢字」については、「読み」は10問中7問で正答率が90%を超え、十分満足できる状況といえます。しかし「書き」は10問中1問しか習熟基準を上回らない低い結果となっています。本校では、国語科において4年生は授業時数を年間50時間以上増やし、朝の帯時間で漢字の指導を週3回設定しています。また、漢字の定着を図るために、副教材「漢字ステージ 100」の指導を徹底し、年間を通じて「漢字ステージ 100」を使用した学習を、計画的に組み入れています。「読み」においては成果が表れていますが、「書き」においては習熟が必要であることが明らかになりました。

そのため、漢字の「書き」については、確実な定着を目指して、朝の帯時間だけでなく、昨年同様宿題として家庭学習で繰り返し練習し、書けるようになったかどうか小テストで一つ一つ確認しながら指導していきます。定着の方法については、一斉に練習するだけでなく、個々の児童の身に付いていない漢字を把握して苦手な漢字を徹底して練習できる場をさらに増やしていきます。学習の際には単語・熟語としてだけでなく、文章の中で「漢字」が読めることや、書けることを目指して、用例に応じた練習を行っていきます。また、正確に漢字を習得するため、点や部首など細部に注意して練習できるよう、意図的に指導していきます。

今後、児童の語彙を一層増やしていけるよう国語辞典の活用指導もさらに工夫していきます。

(2) 言語事項

<結果> 本校平均正答率：77.7% 習熟基準：63.1%

「言語事項」については、「文法に関する知識」3問と「語句に関する知識」5問の計8問が出題されました。結果は、習熟基準を上回った問題が6問、習熟基準と同じ問題が「主語・述語の関係」の1問、下回った問題が「国語辞典の使い方」の1問でした。

全体の正答率は、習熟基準を14.6ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① 主語・述語の関係をとらえることができる。	1・2年	50%	50.0%
② 修飾・被修飾の関係をとらえることができる。	3・4年	70%	85.7%
③ 接続語の働きをとらえることができる。	3・4年	70%	85.7%
④ ローマ字を理解し、読むことができる。	3・4年	60%	78.6%
⑤ 類義語を使い分けることができる。	3・4年	75%	100.0%
⑥ 多義語の意味がわかる。	3・4年	60%	92.9%
⑦ 熟語の構成がわかる。	3・4年	60%	71.4%
⑧ 国語辞典の使い方がわかる。	3・4年	60%	57.1%

<分析と解説>

調査結果から、言葉の組み立てや文の接続、文の決まりなどについての基本的な知識が定着してきていることが分かります。授業で言葉を暗記するだけでなく、生活ノートの日記など日常活動の中で使えるように指導してきた成果の表れだと考えています。

今後も、漢字の組み合わせ(似た意味どうし、反対の意味どうし、打ち消す働きをもつ漢字との組み合わせなど)のパターンを理解させる指導を継続的に行い、中学年から、国語辞典を各自が持ち、日常的に意味を確認させるなど辞書活用の習慣化をさらに図っていきます。また、語句のはたらきや役割に関する理解を深めるために、国語科の指導と共に、低学年から読書指導の徹底、朝読書や朝の帯時間での漢字指導を充実させます。また、5・6年生のステップアップ学習の時間で言葉の決まりや語句の使い方「学習クラブ」等の問題作成ソフトを用いて計画的に指導し、語彙を豊かにしていきます。

そして、学校で学んだことを確実に定着させるために家庭学習の時間を毎日確保したり、新聞や本などを読む環境作りを設定したりしていけるよう家庭に協力をお願いしていきます。

(3) 文学的文章

<結果> 本校平均正答率：89.3% 習熟基準：76.3%

「文学的文章」については、4問が出題されました。結果は、習熟基準をすべての問題で上回りました。

全体の正答率も、全体の習熟基準を13ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① 登場人物の様子を読み取り、それを表現する語句を選ぶことができる。	3・4年	80%	92.9%
② 叙述を基に、登場人物の様子を読み取ることができる。	3・4年	75%	78.6%
③ 叙述を基に、場面の様子を読み取ることができる。	3・4年	70%	85.7%
④ 叙述を基に、登場人物の様子を読み取ることができる。	3・4年	80%	100.0%

<分析と解説>

本校で取り組んでいる読書指導の充実が、児童の読書量の増加につながり、登場人物について、心情や性格・考え方、心情・表現を叙述と関係付けながら読み取る力が身に付いてきているという成果に表れています。

今後も、漢字や言語事項と共に、学校として推薦図書のリストを作成したり、読書記録カードを作成したりして、質的・量的な向上を図り、国語科としての読書活動を計画的・継続的に実施し、主体的に読書に取り組む児童の育成に努めていきます。

(4) 説明的文章

<結果> 本校平均正答率：75.7% 習熟基準：74.0%

「説明的文章」については、5問が出題されました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が「段落のつながり」「段落相互の関係」の2問でした。全体の正答率は、全体の習熟基準を1.7ポイント上回りました。習熟基準を下回る問題が2問ありますが、学習内容の定着度は、ほぼ満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① 指示語の内容をとらえることができる。	3・4年	80%	92.9%
② 段落のつながりを考えて、適切な接続語を選ぶことができる。	3・4年	80%	71.4%
③ 細かい点に注意して文章を読むことができる。	3・4年	75%	85.7%
④ 文章の要点をとらえることができる。	3・4年	70%	85.7%
⑤ 段落相互の関係を考えながら、文章構成を考えることができる。	3・4年	65%	42.9%

<分析と解説>

国語の学習時だけでなく、朝学習やステップアップ学習でも、漢字の読み書きや言語事項についての内容を繰り返し学習するとともに、説明的文章について取り組んでいった成果が少しずつ表れてきています。さらに、説明的文章を読み取る力を付けるために、要旨を的確につかませて「事実」と「意見」を読み分ける指導や、接続詞に着目させて段落のつながりや段落相互の関係をつかむ指導、そして話の展開の仕方(文章構成)を書くことによって理解させることを重視していきます。そのために、全校朝会のお話カードなどでしっかり聞いて書く習慣を付けるとともに、社会科や理科などの調べ学習の際に、自分で資料を読み、大切なポイントをつかむことができるよう、国語科の説明的文章の読み取り指導と関連を図りながら指導していきます。

論理的な思考力を育成するために、授業の中で発表や説明の場面を多く取り入れ、関連付けて作文指導を行っていきます。

(5) 作文

<結果> 本校平均正答率：98.2% 習熟基準：63.8%

「作文」については、4問が出題されました。結果は、すべての問題が習熟基準を上回りました。

全体の正答率は、全体の習熟基準を大きく上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① 相手や目的に応じて、適切に書くことができる。	3・4年	60%	100.0%
② 考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。	3・4年	60%	100.0%
③ 中心を明確にしながら、段落の続き方に注意して書くことができる。	3・4年	70%	92.9%
④ 中心を明確にしながら、段落の続き方に注意して書くことができる。	3・4年	65%	100.0%

<分析と解説>

すべての問題の結果が習熟基準を大きく上回り、なかでも4問中3問において正答率が100%となりました。各教科や行事で自分の考えを書いてまとめる、これまでの取り組みの成果が十分に表れていることが分かります。

今後は、書く能力をさらに高めていくために、体験活動にかかわる依頼文や学校行事の案内状を書くなど、実生活の中で目的に応じた文章を書く機会を数多く設定していきます。書き上げた文章については、児童相互で読み合ったり発表し合ったりして、目的に応じた文章表現ができていくかを確かめ合う場を取り入れて、書くことに対する関心や意欲の向上を図っていきます。

また、生活作文を漫然と書かせるのではなく、自分の書いた作文を推敲できるように、短作文指導などを行い、身に付けるべき能力を明確にした作文指導を行っていきます。

日記などで目的の明確な短い文章を書くことから、「問題提起」「具体例」「意見」「理由・根拠」などの役割を担う段落単位の文章が書けるようにするなど、段階的な指導を行って書くことの力を育成していきます。

説明的文章を読み取るために必要な「論理的な思考力」を育成するためには、目的意識・相手意識がはっきりとした構成の明確な文章を書かせるよう指導していきます。

〔算数〕

(1) 計算

<結果>

「数の式との意味と計算」 本校平均正答率：97.9% 習熟基準：81.8%

「数量関係」 本校平均正答率：92.9% 習熟基準：66.7%

計算については、1年生～4年生までの計算技能の定着度をみるため、「数と式の意味と計算」から17問と、「数量関係」から3問の計20問が出題されました。結果は、すべての問題において習熟基準を大幅に上回りました。

正答率100%が15問あり全体の正答率は、全体の習熟基準を17.7ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① (1けた)+(1けた)=(2けた)の加法の計算ができる。	1年	90%	100.0%
② (十何)-(1けた)=(1けた)の減法の計算ができる。	1年	90%	100.0%
③ 2けた+2けた(繰り上がり2回)の加法の筆算ができる。	2年	90%	100.0%
④ 3けた-2けた(繰り下がり2回)の減法の筆算ができる。	2年	90%	100.0%
⑤ 同分母の真分数の加法の計算ができる。	4年	80%	100.0%
⑥ 同分母の真分数の減法の計算ができる。	4年	80%	100.0%
⑦ 4の段の九九ができる。	2年	90%	100.0%
⑧ 2けた÷1けた(余りなし)の除法の計算ができる。	3年	90%	100.0%

⑨ 2けた÷1けた(余りあり)の除法の計算ができる。	3年	90%	100.0%
⑩ 2けた×2けたの乗法の筆算ができる。	3年	70%	100.0%
⑪ 3けた÷2けた(余りなし)の除法の計算ができる。	4年	70%	100.0%
⑫ 小数+小数の加法の計算ができる。	3年	90%	100.0%
⑬ 小数-小数の減法の計算ができる。	3年	80%	92.9%
⑭ 整数-小数の減法の計算ができる。	3年	80%	100.0%
⑮ 小数(小数第二位)+小数(小数第三位)の加法の計算ができる。	4年	70%	92.9%
⑯ 小数(小数第一位)×整数の乗法の筆算ができる。	4年	70%	85.7%
⑰ 小数(小数第一位)÷整数の除法の筆算ができる。	4年	70%	92.9%
⑱ 四則混合の式の計算ができる。【数量関係】	4年	70%	100.0%
⑲ ()を含む四則混合の式の計算ができる。 【数量関係】	4年	70%	100.0%
⑳ 計算のきまり(分配法則)を理解し、四則混合の式の計算に利用できる。【数量関係】	4年	60%	78.6%

<分析と解説>

20問すべてにおいて正答率が習熟基準を高いポイントで上回っていることから、本校で実施している3・4年生のホップステップタイム(週1回の算数個別習熟度別学習)や朝の帯時間の算数基礎学習(毎週15分を3回)が効果を上げていると言えます。ホップステップタイムは、5・6年生のステップアップ学習につながっていきます。5年生になる前の段階から個別習熟度学習を進めることで、より定着の効果が現れることが明らかになりました。

昨年度、習熟基準を下回った問題の一つに「繰り下がり2回」の計算がありました。正確に計算する習慣が身に付けられるよう、朝の繰り返し練習を工夫して指導していった結果、正答率は100%となりました。

現在、本校では、算数の時間、全学年習熟度別学習や複数教員による指導を行っています。今後も個人カルテを活用し、個々の学習課題を確認しながら進めていきます。

(2) 数と式の意味と計算(計算以外)

<結果>

本校平均正答率：91.1% 習熟基準：77.5%

計算以外の「数と式の意味と計算」については、8問が出題されました。結果は、すべての問題において習熟基準を上回りました。

全体の平均正答率は、全体の習熟基準を13.6ポイント上回っており、学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① 減法を適用して、文章問題を解くことができる。	1年	90%	92.9%
② 十進位取り記数法の考え方を理解し、与えられた数字で最も小さい数字をつくることことができる。	2年	80%	100.0%
③ 命数法で書かれた数を記数法で表すことことができる。	4年	80%	92.9%

④ 千の位までの概数の表し方を理解している。	4年	70%	85.7%
⑤ 3けた÷1けた(余りなし)の除法を適用して、倍の文章問題を解くことができる。	4年	70%	85.7%
⑥ 数直線上に示された小数を読み取ることができる。	3年	90%	100.0%
⑦ 1/1000の位までの小数の表し方を理解している。	4年	80%	85.7%
⑧ 帯分数、仮分数、真分数、整数を大小順に並べることができる。	3年	60%	85.7%

<分析と解説>

すべての問題において平均正答率が習熟基準を上回りました。

昨年度正答率が低かった問題に「十進位取り記数法による数づくり」と「分数と整数の大小関係について」の2つがありました。

「十進位取り記数法による数づくり」については、数カードを用いて、実際に数をつくる場面を設定するなど、具体物を活用した作業的・体験的な活動を工夫しました。

「分数と整数の大小関係について」は、ホップステップタイムや朝の帯学習の時間で個人の課題に応じたきめ細かい指導を行い、数直線などを活用しながら、分数や小数の大きさに対する概念の理解を深めることができるよう工夫しました。また、副教科書「プラスα」の練習問題等を活用してできたかどうか自分自身でチェックして確認させていったところ、両問題共に正答率が習熟基準を大幅に上回りました。

今後も、文章問題についての理解を正確にするためにも個々のつまづきや実態に合わせた課題に取り組むことができるように、個別学習の計画を立てます。また、家庭学習でも取り組むよう宿題の出し方も工夫していきます。

(3) 量と測定

<結果>

本校平均正答率：80.0% 習熟基準：76.0%

「量と測定」については、「図形と数量」の問題も含めて5問が出題されました。結果は、習熟基準を上回った問題が4問、下回った問題が「 $1\ell = 1000\text{m}\ell$ を理解し、適切な単位を用いる」の1問でした。全体の正答率は、全体の習熟基準を4ポイント上回りました。学習内容の定着度は、ほぼ満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① ある時刻から一定時間を経過した時刻を求めることができる。	3年	90%	92.9%
② 2つの時刻を比較して、その間の時間を求めることができる。	3年	70%	71.4%
③ $1\ell = 1000\text{m}\ell$ を理解し、身近にある容器の容量を推察して、適切な単位を用いることができる。	3年	70%	57.1%
④ km,m,cm,mm の長さの単位について理解し、状況に応じて適切な単位を用いることができる。 【図形と数量】	3年	80%	100.0%
⑤ ひょう量2kgのはかりの目盛りを正確に読み取ることができる。	3年	70%	78.6%

<分析と解説>

「1ℓ=1000mlを理解し、適切な単位を用いる」問題が習熟基準を大幅に下回っています。そこで、日常生活の中での行動や経験と対応させて、具体的な場面で単位あたりの大きさがつかむことができるように、具体物を用いた操作活動を意図的に取り入れ、理解を深めていきます。

また、家庭でも飲料水の量や単位・時間や時刻を用いる場面を積極的につくり、意図的に生活の中に取り入れていただくよう協力を仰ぎます。

これらの内容については、ステップアップ学習で指導したり、基礎的な問題を朝の帯時間に取り組んだりして、確かな定着をさらに図っていきます。

(4) 図形と計量

<結果>

本校平均正答率：89.8% 習熟基準：72.9%

「図形と計量」については、7問が出題されました。結果は、すべての問題において習熟基準を上回りました。

全体の正答率は、習熟基準を16.9ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① 点Aを中心に35°の角の作図ができる。	4年	70%	100.0%
② 長方形の中の一部（長方形）がぬけた図形の面積を求める式が与えられているとき、その式にあった求め方を示す図を選択することができる。	4年	70%	85.7%
③ 長方形の特徴を理解し、その特徴に当てはまらない図形を選ぶことができる。	2年	80%	100.0%
④ 直角三角形の特徴を理解し、様々な図形から弁別できる。	2年	70%	71.4%
⑤ 箱を構成するのに必要な辺や頂点の数が分かる。	3年	70%	71.4%
⑥ 二等辺三角形の定義を理解している。	3年	70%	100.0%
⑦ 円の半径について理解している。	4年	80%	100.0%

<分析と解説>

調査結果からは「図形と計量」について全体として十分満足できる状況で、特に「角の作図」「二等辺三角形の定義」「円の半径」については、100%の正答率でした。また、昨年度唯一習熟基準を下回った「長方形の特徴」に関する設問も、100%の正答率でした。

図形を見分ける場合には、見た目の判断だけでなく、図形の定義に基づいて考えることが大切です。長方形であれば4つの角がすべて直角であること、正方形であれば、すべての辺の長さが等しいことを確認する必要があります。幾つかの四角形を直角や辺の長さに着目して分類する、方眼紙上に正方形、長方形を作図する、紙を折って正方形、長方形を作る、などの具体的な操作活動を通しての理解を進めていきます。また、三角定規、分度器、コンパスなどの使い方、図形の作成、見取り図の作図・展開図の作成など、操作が確実にできるよう指導の徹底を図っていきます。

さらに、授業の中でも図形の特徴を言わせたり、書かせたりする活動を取り入れ、構成要素に着目して自分の考えを表現できるようにすることも重視していきます。

(5) 資料の分析

<結果>

本校平均正答率：78.6% 習熟基準：76.7%

「資料の分析」については、3問が出題されました。結果は、習熟基準を上回った問題が1問、下回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を1.9ポイント上回っていますが、学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	学習する学年	習熟基準	本校
① 表の値を棒グラフに表すことができる。	3年	90%	100.0%
② 二次元表のよみ方・かき方を理解している。	4年	80%	78.6%
③ 折れ線グラフの変化について理解し、グラフをよみとることができる。	4年	60%	57.1%

<分析と解説>

資料の分析については、学習内容がまだきちんと身に付いていないという結果が出ました。資料の分析は、数量に関する様々なデータを、目的に応じて収集し、分類整理し、それを表現することができるようにするのがねらいです。そうした活動を通して、的確な判断をしたり合理的な予測をしたりしようとする態度を育てていくことが必要です。そのために、算数科だけでなく他の教科でも、調べたことなどを表やグラフにまとめ、いろいろな見方をさせた上で、この変化を表すのに適した見方は何かを話し合うような活動を取り入れていきます。自分の考えを図や式や言葉で表現するなどの経験の積み重ねで、児童の思考力や表現力を育成していきます。

係や委員会活動での成果をグラフで表して集会で発表したり、学級新聞などでも表やグラフを用いたりするなどわかりやすい表現方法の定着を図っていきます。

結果から明らかになった課題

〈国語〉

①基礎的な言語事項を身に付ける。

漢字の「書き」についての理解が不十分であることが分かりました。

②説明的文章の理解力をさらに向上させる。

説明的文章を正確に読み取り、論理的にとらえる力をさらに伸ばしていくために、段落のつながりを考えて適切な接続語を選んだり、段落相互の関係を考えながら文章構成を考えたりできるようにする必要があります。

〈算数〉

①時刻や時間の求め方、単位あたりの大きさの理解を身に付ける。

2つの時刻から間の時間を求める、適切な単位を使う、単位の換算をするなど「量と測定」に関する基本を日常生活に関連して身に付けさせる必要があります。

- ②数量に関する様々なデータを、目的に応じて収集し、分類整理し、表現できるようにする。
グラフや二次元表などの資料を読んで、何に注目したのか、そこから何が読み取れるのかを自分で説明できるようにする必要があります。

今後の改善・対策

- 学力向上全体の対応策については、校内の**学力向上委員会**が中心となり、より効果的な検定や基礎学力の定着のための指導方法を提案し、全校体制で実践していきます。また、教員以外のボランティアの活用方法や指導内容も検討し、工夫していきます。
- 児童一人一人の**個人カルテ**を作成し、全教員で個に応じた指導を行い、個々の学習状況を確認しながら、課題に応じた教材を選択・作成して適切に活用していきます。児童も学習の記録「わたしのあゆみ」をつけ、単元ごとの学習についての振り返りをします。また、担任・保護者の励ましの言葉等が記入できる欄を設け、児童の学習意欲を高め、能力や資質を伸ばすようにします。
- ステップアップ学習**については、児童の学力の実態に合わせ個に応じた（個別習熟度別）学習内容で取り組めるよう学習環境を整備するとともに、担任・算数少人数担当・専科の複数で指導するなど、さらに内容や指導体制をさらに改善していきます。
- 基礎学力の徹底と向上を図るために、1・2年生では**パワーアップ**の時間を、3・4年生では**ホップステップタイム**を担任・算数少人数担当・専科・指導助手の複数体制で実施していきます。さらに、1・2年生については算数の学習時に担任だけでなく、学習支援員や指導助手が授業に入りながら、協力してきめの細かい指導を行っていきます。
- 家庭学習**の必要性について保護者への理解を図り、学校の方針として宿題を毎日出し、基礎学力の定着を図ります。児童の習熟状況を把握しながら、身に付いていない内容については、基礎・基本の徹底のために学年を越えて繰り返し指導していきます。
- 夏休みに「**サマースクール**」を設けて児童の実態に応じた学習課題を設定し、基礎学力の定着を図り、児童の意欲の向上と学力の向上に努めます。学年ごとの全体指導と共に、個別の指導を行います。指導にあたっては、全教員に加えて、地域の中・高校生ボランティアの協力を得て、個々の児童にきめ細かく対応できるようにします。

〈 国 語 〉

○漢字の読み・書き

言語事項を支える基礎として「漢字ステージ100」を徹底して反復練習を行い、定着を図ります。朝学習15分の帯時間の週3日を「漢字ステージ100」にあて、繰り返し練習や小テストを行い漢字の定着に努め、日常の家庭学習を含めた学習習慣をつけていきます。その際、熟語だけでなく例文を書く場面を意図的に設定することで、児童の語彙が増えるようにしていきます。また、「表記」や「送り仮名」など正確な知識の定着を図るために、児童一人一人に対する丁寧なノート指導の徹底など、全校体制で指導方法の工夫・改善に取り組みます。

○言語事項

次の項目については、ステップアップ学習を活用して内容に合わせた教材やプリントを用意し、計画的に学習させ定着を図っていきます。また、国語辞典の使用を習慣化し、児童の言語力向上を目指していきます。

- ・児童の言語力をさらに高めるために、分からない言葉が出てきたときには、すぐに調べることができるよう、各教室に児童数分の国語辞典を常備しておきます。また、国語の授業だけでなく、社会や理科など他教科の授業でも、机の上に国語辞典を置いて学習するようにし、日常的に活用できるようにしていきます。
- ・熟語を打ち消す漢字の使い方
- ・漢字辞典を活用して、漢字の組み合わせ（似た意味どうし、反対の意味どうし、打ち消す働きをもつ漢字との組み合わせなど）のパターンを理解させる指導の他、日常的に国語辞典を使い、意味を確認させていきます。
- ・修飾語
「主語」「述語」「修飾語」といった用語の意味を知識として理解させるとともに「主語・述語の関係」や「修飾語の係り受け」などを文章の中で理解していくように指導します。

○文学的な文章

人物の心情の理解においては、登場する人物像について、心情や性格、考え方などをより多面的にとらえる学習を行います。そのために、人物の心情を表現や叙述と関連付けて読み取らせ、お互いの考えを交流する場を低学年から意図的に設定して、考えを深められるようにします。また、週1回の読書指導を充実させ、主体的に読書に取り組む児童の育成を図るとともに、授業で扱った作品と関連したテーマや同じ作者の作品に触れることで、登場人物の心情や性格、情景描写などを想像しながら読み取る力を育てていきます。

○説明的な文章

筆者の言いたいこと（要旨）を的確につかませるために「事実」と「意見」をしっかりと読み分ける指導や段落相互の関係を考えるワークシートを用いることによって展開に即した読み取りができる指導を重点的に行います。また、新たな知識を得る喜びや自分の意見をもつ喜びを味わいながら、説明的な文章に慣れ親しむ読書指導を充実させるとともに、論理的な思考力を育成するために、説明的文章で行う文章構成の指導と関連付けて書くことの指導を行っていきます。

○文章の作成

相手や目的に応じた適切な文章を書く力を身に付ける作文指導を行います。目的の明確な短い文章を書くことから「問題提起」「具体例」「意見」「理由・根拠」などの役を担う段落単位の文章を書けるようになるために、段階的な指導を行い書くことの力を育成します。また、説明的文章の理解に必要な「論理的な思考力」を育成するために目的意識・相手意識がはっきりとした構成が明確な文章を書かせる指導を行います。

○聞く・話す

学習の基本である「聞く・話す」力をつけるために学校生活の中で自分の考えを発表したり、友達と意見を交換したりする場面を意図的に設定します。さらに、全校朝会での教職員の講話を「聴き取りカード」に書いたり、朝や帰りの会でスピーチの時間を設けたりして、日常化を図っていきます。

〈 算 数 〉

○ 数量関係、単位の概念…習熟度別学習・ステップアップ学習

算数の基礎学力の定着を図るために、3年生以上は習熟度別学習を実施します。また、各学年、年間30時間程度、複数の指導体制で個別習熟度別学習に取り組みます。学期毎に変容の度合いを数値で表し、身に付いていない内容は個別に徹底指導し、改善を図ります。

○基本の計算力向上…朝の帯時間の活用

100マス計算、繰り上がり、繰り下がりのある計算などを集中して、朝の帯時間15分を週3日の「計算の習熟時間」にあて、計算力の定着に努めます。学年の発達段階や実態に応じて、指導の個別化・重点化を図っていきます。

○低学年からの習慣化

低学年のうちから、ノートの書き方、定規を当てて長さを測ったり、正確に線を引いたりする学習を多く取り入れ、算数の操作的活動に慣れていくようにしていきます。

学力の検証方法

①全学年全国版の学力調査（CRT）の実施

各学年の国語・算数の実態をより詳細に掴むために前年度の全国版の学力調査（CRT）から課題となる単元や項目を明らかにします。平成22年2月に再度学力調査（CRT）を行い本校の取り組みが効果を発揮したかどうかを検証し、具体的な課題や改善策を考えていきます。

②区・都・国学力調査の分析

4年生で行う品川区や東京都の学力調査、6年生で行う全国学力調査の結果を分析し、成果と課題を明らかにし、CRTの結果との関連も踏まえながら学力向上に向けた具体的な手だてを考えていきます。また、各教科の単元終了後に行う小テストの結果も分析しながら、日々の授業の改善に生かしていきます。

②個別カルテの作成

個別カルテを作成し、国語・算数の個別のワークテストや学力調査等の結果を記録・分析し、学力の伸びや課題を学期毎に検証し、個に応じた学習指導を行い学力を伸ばしていきます。

③学習規律・意識調査の実施

学力向上委員会にて、児童の学習意識や生活習慣の状況について調査し、その結果と学力調査との関連を明らかにすることで、指導の改善に生かしていきます。